



小川駅から歩いて10分ほど。東京都立小平特別支援学校の前に、肢体不自由児の発達支援及び放課後等デイサービス施設「あすなろの家」があります。放課後や学校の長期休暇中など、障がいのある子どもたちが地域の中で豊かな生活を送るために、療育等の支援を行っています。「あすなろの家」は小平肢体不自由者父母の会の活動から始まりました。2010年からNPO法人「サポートクラブあすなろ」として運営。2018年夏には、新しいあすなろの家が完成し引っ越ししました。その新しい「あすなろの家」で働くさわやかな好青年の向笠聰さんにお話を伺いました。



◆「あすなろの家」に就職したきっかけは？

在学していた白梅学園大学では地域の子どもたちと遊んだり、保護者や高齢者、障害者とふれあったり、地域の人々と学生がつながる交流活動の場として「白梅子育て広場」が活動しています。そこに参加していました。あるとき、卒業生の先輩から「あすなろの家」を紹介されアルバイトとして働くようになりました。アルバイトから正職員になるときは、もちろん悩みました。誰もが仕事に就いてすぐ、ここに通う子どもたちと関係を築けるわけではないので、子どもたちのことを知っている人がひとりでも多くいると子どもたちは安心なのかなとか。また、子育て広場での企画に呼んでもらう時など、学生をつなぐ役割があるのかなとか。さまざまなことで、やりがいを感じていたので、ここで正職員になろうと決めました。

◆福祉、子育てに興味があったのですか？

家族・地域支援学科の二期生として社会福祉を学びました。入学当初は、社会福祉という言葉も知らず、社会福祉ってなに？という状態からでしたが、いろいろなことを学び、それが深まるにつれて自分のやりたかったことと、そう違わないということに気がつきました。「白梅子育て広場」での活動も、意外と自分に合っているなと感じました。

◆「あすなろの家」の仕事はいかがですか？

毎日、とても楽しいです。子どもを抱き上げたときに、あれ？重くなったなとか、子どもたちの成長を実感でき、そういうことが楽しいし、やりがいを感じます。ただ、夏休みなどの丸一日の活動のときは抱き上げる回

数も増えるので、ちょっと腰が痛くなることもあります（笑）。

◆これからの目標のようなものは？

「あすなろの家」に通っていた子どもたちが卒業し、その後の人生を歩んでいく中で、あの時「あすなろの家」に通ってよかったですなと思ってもらえたうれしいです。また、今まで振り返ってみると、当初の目標通りいかなくとも人の出会いがきっかけとなって様々なことがうまく進んでいるような気がしています。「あすなろの家」で働くきっかけとなったのも人の出会いからでした。3.11のあと震災ボランティアにもかかわりました。そこでつながりも今に活かされています。なのであまりこうしたいなどの目標を定めず人の出会いを大切に、つなげていければと思っています。



人と接するのは苦手だったけれど、人と出会い人とつながっていくことでどんどん世界が広がっていったという向笠さん。子どもたちに寄り添い、その成長を支えながら、一方では学生と社会をつなげていく。そこに、向笠さんの仕事に対するやりがいの源泉を感じました。目標は定めずと話していましたが、とても大きな想いを心の奥底に持ちながら、でも気張ることなく、さらっと自然体で活動しています。いろいろな経験や人とのつながりの中にいいことがあるはずと、笑顔で答えてくださいました。



（取材：古家裕美）